

平成25年度第10回移動市長室会議録

(平成26年1月31日)

1 日 時：平成26年1月31日（金）、14時～16時

2 場 所：筑紫野市商工会館

3 出席者：

『筑紫野市商工会女性部』

堀部長、小野副部長、久芳副部長、飯干研修委員長、荒川研修委員、石丸広報委員、
堺広報委員、下田広報委員、花田新部員育成委員長、帆足新部員育成委員

『筑紫野市』

藤田市長、山崎環境経済部長、三上商工観光課長、宗貞戦略企画課長、
檜木秘書広報課長、瀧本商工観光課長補佐、日野広報広聴担当係長、
松隈秘書広報課主任

4 内容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） ただいまから、平成25年度第10回目の移動市長室を始めます。

司会を務めます、秘書広報課の檜木と申します。最後までよろしくお願いいたします。

移動市長室は市内のいろいろな分野で活躍されている各種団体、グループの方とより深く懇談を行い、そこでの意見や要望を今後の市政に生かしていくことを目的に実施しております。今回で通算30回目です。

本日の懇談は、お手元の次第どおりに進めさせていただきます。この後、藤田市長の挨拶、商工会長の御挨拶、堀部長の御挨拶、出席者の自己紹介、懇談の順番でまいります。

本日の懇談内容は会議録を作成し、市民の方に公表いたします。また、お撮りしました写真は、広報紙、ホームページに掲載させていただきますので、御了承ください。

ではまず、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。筑紫野市長の藤田陽三でございます。

本日は30回目になります移動市長室を、堀部長率いる筑紫野市商工会女性部の皆様方と行わせていただくわけですが、平素から筑紫野市の行政の各般にわたり、いろいろと御理解、御協力を賜り、心から感謝を申し上げます。とりわけ地域経済の発展あるいは振興につきましても、この商工会女性部の役割というのは非常に大きなものがございます。

また、先般、商工会女性部が創立50周年を迎え、その記念式典にご招待いただきありがとうございました。非常に和やかな中にも、節度のある式典でございました。昭和39年に「いずみ会」として発足した会が今や50年の歴史を刻み、111名もの会員数をほこるまでになったのは、8代目の堀部長に至るまでの歴代部長たちが、この50年の歩みの中で紆余曲折する時代背景を鑑みながらいかに努力してこられたか、その足跡が非常に貴重なものであると、このように強く感じたところでございます。地域活性化に向けた皆さん方の幅広い、精力的な活動の継続に頭が下がる思いです。

筑紫野市商工会は、県下でも非常に優れた結束力を持った商工会ですが、それを支えている女性部、また青年部もありますが、そういったことも鑑みながら、移動市長室での意見を真摯に受けとめ、今後の市政運営に大いに役に立たせていただきたいと思います。

また、女性部の抱えた問題の中には、今、非常に重視されております男女共同参画社会を推進していく中での大きな課題も含まれていることだろうと思います。

今日はぜひ皆さん方の熱心な思いを聞かせてもらって、有意義な時間にさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○（事務局） 続きまして、藤木商工会長、お願いいたします。

○（藤木会長） 皆さん、こんにちは。今日は移動市長室ということで、藤田市長、お疲れ様でございます。また、筑紫野市商工会に対してもいろいろ援助していただきまして、本当に助かっております。

商工会女性部との懇談ということで、女性部の50周年記念式典も無事に終わりましたので、そういうことも含めながら、女性部の幹部がいろいろと市長にお話しすることもあるでしょうし、また意見が出てくると思います。内容的には御婦人の話が多いと思いますし、先ほど市長が言われますように、女性の参画の話もでてくると思いますので、よろしくをお願いします。

○（事務局） 藤木会長は、ここでほかの業務があるため退席されます。どうもありがとうございました。

それでは、改めまして、商工会女性部、堀部長に御挨拶をいただきたいと思います。

○（堀女性部長） 皆さん、こんにちは。商工会女性部長、堀でございます。

先日の商工会女性部創立50周年記念式典では、市長をはじめ市の皆様、御出席ありがとうございました。

今日は、移動市長室ということで、私たちのいろいろな話や要望を聞いてくださるということでしたので、皆、それぞれ張り切っております。よい町になりますように、魅力ある町になりますように、意見を出していきたいと思っていますので、今日はよろしく願いいたします。

○（事務局） 堀部長、どうもありがとうございました。

続きまして、参加者の自己紹介を行います。

まず、行政側からまいります。私、秘書広報課の檜木と申します。

○（戦略企画課） 戦略企画課長の宗貞です。

○（山崎環境経済部長） いつもお世話になっております。環境経済部長の山崎です。

○（商工観光課） 商工観光課長の三上です。

○（事務局） 秘書広報課広報広聴担当係長の日野です。

○（商工観光課） 商工観光課長補佐の瀧本です。

○（事務局） 秘書広報課の松隈です。

○（事務局） 以上が行政側です。続きまして、女性部の皆様、よろしく願いいたします。

○（堀女性部長） 現在、女性部長をしております堀です。お店のほうは二日市中央通りで、時計宝石メガネのヒラヤマをしております。

○（女性部） 女性部の副部長の小野と申します。会社は、筑紫野市山家で建設会社、小野建設有限会社をやっております。山の中の山荘暮らしですが、自然に恵まれて、また便利などころでもありますし、本当に筑紫野市は住みやすいところだなというふうに思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○（女性部） 湯町のくば歯科医院の久芳と申します。いつの間にか、副部長になってしましまして、こんなところに座らせていただいておりますけど、いつも明るい皆さん、すばらしい皆さんのお仲間にしていただいて、何とか頑張らせていただいております。今後ともよろしく願いいたします。

○（女性部） 研修委員長の飯干です。うちは福岡オートドア工業といたしまして、自動ドアの会社をやっております。

年に一度、各地域の商工会の女性部の方が集まる、九州ブロック大会の一般研修がありまして、部員の資質向上のために参加しています。

○（女性部） 杉塚で設備会社をしております、中央設備株式会社の堺です。

女性部に7年ぐらい前に役員として入りました。それまでは、自宅と会社の行き来ばかりでしたが、こちらの活動をさせていただくようになりまして、地域のほうにも目がいくようになり、本当によかったと思っております。友達も増えまして、いろいろな業種の方もいらっしゃいますので、生きがいというか、もうそういうふうになっています。地域のために何らかの形で貢献できたらと思っております。

○（女性部） 新部員育成委員の帆足です。帆足貸家という借家業を紫でやっております。

○（女性部） 新部員育成委員の花田です。中央通りで、お仏壇のよーかどうを営んでおります。

○（女性部） 筑紫環境サービスの下田でございます。勤めておりますところは、皆さん御存じの山家の筑慈苑で頑張っております。女性部はまだ3年ぐらいです。今後も皆さんと一緒に仲良く頑張っていきたいと思っております。

○（女性部） 山家で土木業者をしております、嘉起島土木工業の石丸です。女性部に入らせていただいて、とても楽しくさせていただいております。

○（商工会） 商工会事務局で、女性部を担当しております田中です。今年5月から女性部を担当しています。役員の皆様いろいろなかわいがっていただいて、教えていただいて、やっと今日までやってこれたというところなんです。

○（商工会） 商工会事務局の女性部の事務をしております東原です。常日ごろ、市役所の

方にはお世話になっておりますが、今日もこういった貴重な体験をさせていただくことを光栄に思っております。

○（事務局） ありがとうございます。

それでは、これから懇談に移ります。

まず、商工会女性部の概要について、お話をお願いいたします。

○（堀女性部長） 筑紫野市商工会女性部は地域を支える女性団体として、地域とともに活動しております。研修会、地域貢献活動、ボランティア活動などの諸活動のほか、親会である商工会や、商工会青年部とともに振興事業など幅広く活動しております。

女性部の組織図ですが、総会の際に部長、副部長が決まり、ほかの役員は各地域から部員の数に合わせて、1、2人選出して、現在12名おります。そして、監査が2人。また、役員の中から会計を決めております。

女性部は3つの委員会で成り立っております。研修委員会、新部員育成委員会、広報委員会で、任期は2年です。去年までは3年でしたが、今年から2年になりました。

女性部の部員数は、現在111名おります。

活動内容としては、総会を毎年5月中旬に、常任委員会を毎月第1月曜日に商工会館の1階で行っています。委員会活動ですが、3つの委員会がありますので、それぞれの計画に従って活動しております。新しいことをすることもありますが、現在の活動だけで精いっぱいです。また、地域振興事業、奉仕活動、視察研修、講演会、その他に地元の企業巡りなどの活動をしています。

それでは、委員会活動について、まず研修委員会の飯干さんに活動報告をお願いしたいと思います。

○（女性部） 本年度は大分のほうに、九州ブロック大会へ行っております。これは、県単位、県から代表で選ばれた人たちが発表する場で、福岡県からは、本年度は太宰府が代表で出ております。また、そのときに、部員の懇親を深めるために観光も行っています。

○（女性部） 次に広報委員会ですが、年に1回、広報紙「いずみ」を発刊しています。

「いずみ」は昭和62年4月に第1号が発刊され、当初はモノクロB5版でしたが、4回の変遷を経て、現在はオールカラーのA4版で、写真も豊富に掲載し、読みやすく楽しい紙面となっています。1年間の研修や、観月会、いきいき商工農フェスタなどで女性部が生き生きと和やかに活動している姿を少しでも多く紙面に反映させて、女性部に入りたいて言ってくれる方が増えるように、そして新しい方が積極的に活動に参加していただ

るように心がけながら作成しております。

今年度はまだ作成中ですが、もうすぐ完成しますので、ぜひお目にとめていただけたら
と思っております。

- （女性部） 新部員育成委員会ですが、年間を通して部会で多数の行事がありますので、
研修会に参加していただき、活動に御理解いただいて、また御協力を仰ぎながら、一同、
部員同士交流を図ることを旨としております。

企業訪問を日帰りで行っており、平成22年は地元の企業を訪問いたしました。味の兵
四郎や石橋ファームです。

平成23年は、おおき循環センターくるるんを視察いたしました。循環型社会の仕組み
と大切さを学びました。従来、焼却処理をしていた生ごみや、海洋投棄処理していた浄化
槽汚泥やし尿は、エネルギー資源や有機肥料として活用されているそうです。未来の世代
に地球温暖化などの深刻な影響をできるだけ残さないように、ごみを資源として循環利用
することを目的としております。また、八女市の石橋工業などを視察いたしました。

平成24年は飯塚市商工会女性部との交流会をいたしました。

平成25年は嘉穂劇場に行きました。国の認定近代化産業遺産、それから登録有形文化
財に指定されております。

- （堀女性部長） それから、会計の堺さんから一言。

- （女性部） 結構、支出も多いので、観月会のバザーやいきいき商工農フェスタなどで、
みんなでおまんじゅうなどを作ったりして収入も獲得しようと頑張っております。

- （堀女性部長） 地域振興事業としては、「二日市温泉と天拝山観月会」です。私たちは
青年部と一緒にバザーを担当しまして、うどん、おでんなどをつくっております。また、
収益金の一部は、社会福祉協議会に青年部と一緒に寄附しております。

いきいき商工農まつりでは、商工会と一緒に、私たちはフリーマーケット、それから紫
ごはん、紫まんじゅう、だんごなどを販売しております。貴重な収入源となっています。

それから、奉仕活動として、青年部と合同で献血事業を行っております。

また、天拝山公園清掃を、観月会が終わりました翌朝に、女性部含めまして青年部、親
商工会で清掃しております。

視察研修、講演会活動として、商工女性主張のつどい福岡地区大会並びにふくおか女性
アカデミーに参加しています。それから、筑紫地区商工会女性部合同事業というのがあり
まして、これは4市1町の女性部の合同事業です。また、経済同友会との共催で、市長と

の懇談会を行っています。

その他の事業として、毎年、ソフトバレーボール大会に参加しています。太宰府市はもう選手の方がいないということで出ておられませんけれども、筑紫野市はすごくソフトバレーが強いんですよ。3年前には福岡県で優勝しました。

それから、天拝山ロードレース大会が11月23日にあっており、協賛しています。

募金活動もしており、盲導犬育成、社会福祉協議会、それから、震災の被災者へ募金いたしました。

商工会で取り組んでいる「紫プロジェクト」への協力については、紫のまち博覧会で味の兵四郎さんの中で、料理教室と寄せ植え体験をしました。また、いきいき商工農フェスタのときに「いきなり紫団子」「紫いも蒸しパン」「式部紫ごはん」をつくり、販売いたしました。好評でした。

本年、平成25年は女性部の創立50周年で、ちょうど1週間前に50周年記念式典を開催しました。

○（事務局） ありがとうございます。

続きまして、課題について、小野副部長からお話をいただきたいと思います。

○（女性部） 女性部活動の課題ですが、女性部員の高齢化、若手部員の減少ということが上げられます。

県の各商工会女性部が集まった会議等で、それぞれの地域の商工会女性部の活動の課題を話し合いますが、その場で感じるのは、筑紫野市は恵まれているということです。市からも商工会の活動に御援助いただいておりますし、また市町村合併もございませんし、あと親会や青年部との関係も大変良好で、本当にのびのびと楽しく活動させていただいて、私たちが日ごろ当たり前と思っていることが、実は非常に恵まれた状態にあるということ、会議のときにいつも実感しております。

部員数ですが、よその商工会は人数がどんどん減っている中で、私たちは100名を切らないように頑張ろうねって、いつも声をかけて頑張ってきておりまして、現在111名の部員がおり、大変ありがたいことだと感じております。しかし、その内情を見ますと、60歳以上の方が全体の70%。また、40代以下の若い世代は5%しかいないというのが実情です。私は50代半ばですが、商工会女性部では若いと言われます。

例えば、青年部で頑張っている方の奥様が、女性部に入っておられるかということ、ほとんど入っていらっしやらないと思います。やはり、御家庭での家事や子育てを担うことで、

家業を支えておられるのが現状ではないかと思っております。

私たちは、今、堀部長のもとで楽しく活動しており、本当に女性部の活動が楽しいということを生懸命体現してきているつもりですが、ただ、このままだと、10年、15年経ちますと、御高齢の方が一斉に女性部を抜けられたり、家業を廃業されたりといったことで、一気に人数が減るということも十分考えられることではないかと思っております。

男女共同参画社会ということもございますけども、現場に即した工夫のある取り組みが必要だと思っております。親会のほうには30代40代の新しい会員が増えておりますが、それが即、女性部の増員には結びつきにくいのが現状ではないかと思っており、課題として認識しております。

○（事務局） どうもありがとうございました。

ここで少し時間をとりまして、ご質問等させていただきたいと思えます。

筑紫野市商工会女性部は創立50周年をお迎えになりました。また、堀部長は8代目の部長ということです。このように50年もの間、地域に根付き、立派に続けてきたことの理由や秘訣があればぜひ教えていただきたいと思えます。

○（堀女性部長） 50年というと、本当に長いと思えます。初代部長の木村さんが、その前向きな行動力をもって「いずみ会」をつくり、活動を開始されました。県でも商工会の女性部の活動がありますが、筑紫野市の方が先に始まっています。そして、3代目部長の岡さんのときに組織体制を整え、その後の歴代部長たちが仲間の絆を強めてきました。

私も歴代部長を皆さん知っていますが、やはりこう一生懸命活動されてあって、ついつい私たちも引き込まれて、楽しくさせてもらったという次第でした。やはりその吸引力は大きく、前向きな方が多かったんだなと思っております。

女性部の活動はボランティアですることだから、仲間を募って楽しくしないと長続きしません。歴代部長さんたちの気配りや包容力のおかげで長く続けてきたのだと思えます。

歴代部長たちに、本当に感謝しております。

○（事務局） 楽しく活動するということが肝心なのですね。

○（堀女性部長） そうですね。皆さん、ボランティアですので、観月会、いきいき商工農フェスタ、旅行に行くときは経費が手出しになりますので、楽しくしていかないと。

○（女性部） すごく大変なんですけど、それを成し遂げた後の達成感というのがたまらないですね。それをみんなで共有できるということが、やり甲斐だと思います。

○（事務局） 役員会の雰囲気というのは、いかがでしょうか。

○（堀女性部長） 役員会の雰囲気はすごくいいですよ。役員会で旅行に行くと、とても楽しいです。絆をつくっていくためには、やっぱり楽しくすることじゃないかなと。

○（事務局） 女性部に入っただけのメリットとして感じるものがあれば教えてください。

○（女性部） 仕事柄、普段は山のほうでずっと作業していますが、今日のようなときは一度家に帰ってお化粧し直して出てきたりと、そういう機会ができることはうれしいです。

買い物に行ったときに女性部の活動で顔見知りになった人とお会いすることもあり、親睦が深まります。人との繋がりができると、地元に対する愛着がより強くなります。そのことを女性部で実感しました。女性部に入って、本当によかったと思います。

○（堀女性部長） 私が、一つ思っていることは、やはり全員参加ということですね。楽しく全員参加ということ、頭に常に置いています。

○（女性部） 自分とは年代が違う人と繋がることで、自分が知っている仕事の内容とはまた別の仕事の話がたくさん聞けるので、心も頭の中も豊かになっているような気持ちが出て、そういうところがいいと思っています。

○（女性部） 観月会やいきいき商工農フェスタ、やっぱり大きな行事は大変ですが、行くと、やり遂げたという達成感も湧いてきますし、異業種の方とお話しできて視野が広がります。

○（女性部） 私も商工会に入って、3年近くなります。楽しいことがいっぱいあります。友達づくりのようなものと思って、多くの人にどんどん参加してほしいなと思います。

○（女性部） ソフトバレーボール部があったおかげで、健康にもなりましたし、知り合いがたくさんふえて、仕事のことでも皆さんが助けてくださいます。ありがたいです。女性部に参加して、いいことばかりです。

○（女性部） 女性部に参加するメリットや楽しいことは、自分は体験しているからわかるんですけど、それを人様に伝えることが結構難しいと思います。それは部員数を増やしていくための課題でもあります。入ったら本当に楽しいので、だからまず入ってくださいとお伝えしたいと思います。

○（事務局） 3つの委員会の概要をご説明いただきましたが、それぞれの委員会の中で、特に気をつけていらっしゃる点、留意されている点、重点的に取り組んでいる点などのお話を伺いたいと思います。

研修委員会は、会員の資質の向上と交流、親睦を図ることを目的としているとのことで、多くの方が参加されませんと成り立たないと思いますが、参加者を増やすために何か工夫

されていることがあればお聞かせください。

○（女性部） 年に1回、九州ブロック大会がありますので、研修の一環として参加しますが、やっぱりそれだけではなかなか参加者が多くならないので、観光も兼ねて行くことにしています。皆さんが喜ばれるように一生懸命コースなどを考えて、参加者を多くするよう提案しております。

○（堀女性部長） 筑紫野市商工会には会員専用のバスがあるため、すごく助かっています。25名乗ることが出来ますので、いつも25名を募集して行きます。ほかところは、そんなバスがあるところないんですよ。それで、あなたたちいいねいいねって言われます。

○（事務局） 広報委員会では、年に1回、広報紙の「いずみ」を発行されているということで、最近フルカラーにされたということですが、この編集に当たり、気をつけているところなどについてお話をお願いします。

○（女性部） 写真を載せるときに、どの写真を載せると楽しい雰囲気が伝わるか、読んだ人が参加したいと思ってくれるかを考えて写真を選んだり、なるべくたくさんの方を載せたいという思いがありますので、たくさんの方が紙面に登場できるように、そういうことも考えています。また、字が小さいという御意見も来るので、字が見えやすいように、読みやすいようにということをお心掛けてつくっております。

○（堀女性部長） 配布は、商工会の会報を送るときに一緒に送ってもらっています。商工会の会報は1年に何回か出ますが、私たちは1回ですので、2月か3月のときに一緒に入ってもらっています。それで、全商工会員のところに郵送で配布されます。

○（女性部） 編集やデザインは、印刷会社さんと広報委員会が一緒になって考えて、楽しく見えるような紙面をとということで一緒につくっております。

○（事務局） 新部員育成委員会では、研修を通して新しい会員の方の育成を図られているとのことですが、お話をお伺いしてもよろしいでしょうか。

○（女性部） 新しい部員さんには早くなじんでいただいて、いろいろな行事に参加していただきたいと思っています。ただ、余り無理強いはしないようにしています。

出やすいときに出てください、なるべく来てねとかいう声かけをしています。

○（事務局） 先進地視察に行ったり、他の団体と交流をもたれているようですが、特に印象に残った、また参考となったことや、また、それにより筑紫野市のよいところも再確認ができたといったこともあればお話してください。

○（堀女性部長） 去年、山口県に役員研修に行ったときに、その女性部の会長さんから、

お待ちしていました、自分たちの課題について筑紫野市からお話を聞きたいと、逆に聞かれました。そうやって、話を聞いておきますと、やはり筑紫野市は進んでおりますので、よそに行って勉強になるということもありますけど、筑紫野市は何ていいところだろうということを確認させてもらっています。

他の地域での話として、合併したところが多いんですが、そこそこでやり方や考え方も違いますので、合併の難しさや、団結のしづらさという話を聞きます。

視察に伺う時はたくさん「いずみ」を持っていきます。そうすると、こんなに活動されて会費は幾らですかと聞かれます。私たちは1年間6000円と言うと、驚かれます。よそは、2000円や3000円なんです。私たちは、市からの援助も受けているし、自分たちで収入をつくるためにいろいろなことしてるけれども、よそとはちょっと活発さが違うのだなと、帰りのバスの中でも話したりします。

私たちは、本当に恵まれていると思います。そして、恵まれているからこそ、また仲よく、ますますがんばっていかうと思っております。

○（事務局） それでは次に、要望事項にまいります。

○（女性部） 男女共同参画社会の実現のため、女性の社会参加が促進された現代では、まちづくりにおいても女性が働きやすい、住みやすいという、イメージが大事だと思います。筑紫野市には、子連れのお母さんたちがたくさん住んでいますので、公民館などの各公共施設に授乳室やおむつを交換する場所があると良いと思います。働きに出るお母さんというのは子育てと両方ですので、そういう方たちに心配りの行き届いたまちづくりということを女性部としては提案させていただきます。

特に、イメージづくりとしてはトイレですね。やっぱりどこの観光都市に行っても、トイレが汚かったら、町がいくら派手でも、何かこうやっぱり嫌じゃないですか。筑紫野市は現在、天拝公園のほうも整備されており、観光都市、湯の町、太宰府、それから筑紫野の二日市温泉のイメージアップを図っていると思います。

ただ、私たちが気になっているのが、歴史のある二日市の商店街の、中央通り商店街にあります公衆トイレですが、小さくて暗い印象で、子供連れやお年寄りには使いにくいものになっています。また、高速バスを使って温泉街に来られる方が今から増えると思うんですね。そういうことで、武蔵の高速バス停の周辺に公共の、使いやすく清潔なトイレを設置していただきたいというふうに思っております。

これから先、都市計画の中でぜひ考慮していただきたいのは、道路をつくる際には、障

害者への配慮と併せて、ベビーカーを押して歩くお母さんたちが安全に通行できる道幅や段差の解消を考えていただきますようお願いいたします。

子供連れでも十分に安心して、近所の商店街でもゆっくり時間をとってお買い物していただく。やっぱりそういう方たちが町の中で安心して行き来して、町全体に女性が動き始めると活気がつくと思うんですよね。筑紫野市に行ったら買い物がしやすいし明るいしという口コミが生まれると、町全体のイメージになりますので、ぜひ考慮していただけたらなということで、女性部から提案させていただきます。

○（山崎環境経済部長） 女性の意見を取り入れたまちづくり、女性や子供を初めとした生活弱者に配慮した施設の整備ということで、御指摘いただきました。

御存知のように、筑紫野市は交通の利便性の高さから福岡市のベッドタウン化が進行し、マンション建設などにより他市に比べますと人口がまだ増加しています。快適で住みやすいまちづくりを進めるためには、行政だけではなかなか取り組めるものではなく、市民のニーズに応えられるようなまちづくりを進めなければならないと考えております。

男女共同参画社会の構築につきましては、平成15年に男女共同参画都市宣言を行い、平成17年には筑紫野市男女共同参画推進条例を制定しました。男女がお互いの人権を尊重しながら責任を分かち合い、そして性に関わりなく、自らの意思で多様な生き方を選択し、その個性と能力を十分発揮することのできる社会づくりを目指して、行政、議会、市民、事業所などが一体となって、さまざまな取り組みを行っているところです。

生活弱者に配慮した施設の整備につきましては、関係法令並びに福岡県福祉のまちづくり条例に基づき、新たな施設の整備に当たりましては、皆様の声を聞きながら、できる限りの整備を行ってきております。また、既存の施設につきましても、随時改良を加えながら対応しているところです。

一例ですが、市役所の1階ロビーの改修や赤ちゃんの駅の設置などを行いました。まだまだ十分ではないところもあるかと思いますが、市民サービスの向上に努めているところです。

○（事務局） 次のご要望について、よろしくお願いたします。

○（女性部） 天拝公園にある万葉植物園を、以前見せていただいて、すばらしいところだなと思っておりましたら、いつの間にかちよっと荒れているような状態になっています。ぜひ、天拝公園の万葉植物園を整備していただきたいと思っております。

万葉の里、筑紫野市の市名の由来とも言える「紫」を代表する郷土の万葉草花を未来に

つないでいただけたらと思います。

- （山崎環境経済部長） 筑紫野市は万葉の時代から名所、旧跡が数多くあり、天拝公園や天拝山は多くの市民の憩いの場となっております。現在、駐車場の整備もしておりますので、またこれから多くの方が訪れると思っております。

万葉植物園ですが、以前は植物に詳しい方により管理されておりましたが、その方が亡くなり、その後、通路部分につきましては、市のほうで草刈りを行っております。しかし、正直言いまして、どれが万葉植物か雑草かという区別がなかなかつきにくいということもあり、園内については手つかずの状態となっております。

先日の懇談会の中でも万葉植物園の整備のお話を伺いましたので、早速、植物友の会に声かけをしたところ、植物友の会のほうでも、先輩諸氏が整備をおこなっていた場所ということもあり、数年前に自分たちでも整備をされたらしいんですが、人数が少ないということもあり、中断したという話でございました。

しかし、お話の中で、皆さんと一緒に協力してできるのであれば整備したいとの申し出をいただいております。今後どのようにしていくかを定めるため、まず、2月23日に現地を見て回って、話し合いを進めていく予定にしています。

商工会女性部の皆様方にも、いろいろな形で御協力をお願いできればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

- （藤田市長） 部長の話の中にありましたとおり、男女共同参画社会における取り組みを進めていますが、やっぱり市の女性職員の課長職、課長補佐職、係長職はまだまだ少ないんです。それをこの3年間で増やしてきました、去年やっと女性の部長職が誕生しました。この部長が非常にしっかりしておりますので、今後も女性の幹部職員を増やしていくつもりですが、やっぱりまだ子育てに負荷がかかっているとか、家庭環境の中でお年寄りがもう手が要るようになってきたとか、いろいろ状況がありまして、そこをちょっと悩んでいるところです。

それから、自然災害を考えたときに、防災の協議をする筑紫野市防災会議の委員に女性を4人登用しまして、女性視点での意見を取り入れるようにしています。

また、女性職員自身に向けては、管理職になるための教育も行っていないといけません。去年は、海老井福岡県副知事に来ていただき、講義してもらいました。女性たるもの管理職になるにはこういうふうな観点、男女平等というなら平等の感覚を持たないとだめよという叱咤激励を受けてですね、やっぱり大きな影響を受けた人もいます。

男女共同参画社会とは言うんですが、まだ日本社会の中で男性の立ち位置、女性の立ち位置というところが、まだ厳然と残っていますので、それを打破しながら職場で男女共同、平等の仕事を切り盛りしていくことは厳しいところがあります。

やっぱり、商工会女性部のように自分でお店を持って経営してある方は、そういった辺の感覚というのは非常に高いんですね。むしろ女性のほうがリーダーシップとってあるところもあると思いますが、行政の中ではその段階になるにはもうしばらくかかるんじゃないかなと思っております。

それから、植物園の話がありました。経済同友会がその裏手にあじさい園を持っています。その辺も含めて、道路なんかも整備していかないといけないと思っています。周辺を整備、改善しながら、天拝公園や植物園をもっと親しまれるようなものにつくり上げていこうとしていますが、もうしばらく時間がかかるんじゃないかなと思っています。

堀部長や皆さん方のお話を聞いておると、楽しみながらやっていくこと、これがやっぱり長く持続できる最大の要因だと伝わってきます。組織の中で楽しみを見つける、楽しいことを教える、そういう組織の幹部がここにいらっしゃるんだろうと思います。そういう、恵まれたチームワークがあるのだと感じました。今日はいいお話を聞かせていただきました。

○（事務局） では、要望事項については、ここで終わらせていただきます。

ここで、先ほど荒川委員さんがお見えになりましたので、自己紹介をお願いします。

○（女性部） 冠婚葬祭の司会の仕事をしております、荒川と申します。研修委員に所属しています。50周年記念式典の司会もさせていただきました。

仕事の関係で遅くなり申し訳ありませんが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

○（事務局） ありがとうございます。

それでは、最後にもう少し時間がありますので、フリートークの時間を取りたいと思います。藤田市長に何か直接聞いてみたいこと、市政について何か意見がある方は、遠慮なくお願いしたいと思います。

○（堀女性部長） やはり、こういう懇談の場を持っていただき、行政と女性部とで直接お話をできてよかったなと思っております。

○（女性部） ちょうど市の入札、指名の切りかえのときなんですけども、その申請書の中に男女共同参画に関する、職場でどの程度女性が働いていますかといったアンケートがありました。そういうデータみたいなものはいただけないのでしょうか。

○（事務局） 雇用の場における男女共同参画の状況調査のことだと思いますが、そちらは集計でき次第、市の公式ホームページ上で公開しています。競争入札参加資格審査申請を希望する事業者の方々に協力してもらっている、男女共同参画に関する調査になります。回答は任意となりますので、すべての事業者が協力いただいているわけではありませんが。

○（堀女性部長） 12月11日に生涯学習センターで、男女共同参画関係団体交流会を、市の男女共同参画推進課が開催されて、商工会女性部と農業女性グループ協議会が報告発表をしました。

筑紫野市商工会のデータとして、市内事業者は約3000人おられて、そのうち女性経営者は280人ほどいらっしゃいます。全体で商工会の会員数は1800人で、女性部は110人なので、心強い思いがしました。

○（女性部） 本当、魅力ある筑紫野市になってほしいと、私たち、みんな願っております。やはりよその市から筑紫野市に住みたいねって言われるような市をぜひみんなで作っていきたいと思います。今、結構、町の中もきれいになってきておりますね。

○（堀女性部長） 市外の人と研修などで集まったりしたときには、自慢するんですよ、筑紫野市のことを。温泉があつたり、交通の便が良かったり。人柄も穏やかですし、本当にですね、すごく住みやすくいいところです。

○（藤田市長） 市制施行して40周年を一昨年迎えましたが、人口はずっと増えているんですよ。これから10年ぐらいはまだ伸びる可能性があり、子育て支援課はそれを見越して待機児童がないように計画を立てているのですが、やっぱり難しいですよ。現時点では待機児童がいませんが、これから何カ所かマンションが建つところもありますし、これからさらに子供の数は増えていくと予測できますので、保育所の増設などで定員を増やすなどの対策を行っています。

赤ちゃんの駅も、このあたりに高齢者施設ができていますけど、そこは必ずつくってられていますし、保育所には全部ありますので、どこでも使ってください。

それから、親子の遊び場、ふれあいの場として、つどいの広場「つくしのこ」を二日市中央に開設しています。

○（堀女性部長） 私は、堀内みど里さんから男女共同についてたくさんのことを教わりました。以前、堀内さんに聞いたんですよ。私もちょっと封建的なほうだったから、「男女共同と言われても、同じにはできないじゃないですか。男は男で仕事があるし、女は家庭もあるし」って言ったんですよ。そしたら、「そうじゃないのよ。男の仕事は男、女の仕

事は女がすればいい。ただ、女は女で仕事をしていても、昔の家庭だと女は黙っとけって言われて、その意見が取り上げられないところもあった。役割は男女別々でもいいけれど、その意見を、女の人の意見もちゃんと取り上げるっていうことが男女共同で、平等にしないといけないところを平等にしないといけないのよ」と言われました。だから、私も、ああ、そうだな、嫁の意見はこうとか、女は余計なこと言うなとか、それがいけないことなのだなと、頭の中を切り替えることができました。

仕事は、男の仕事、女の仕事、それは差があっていいのよ。女の人の意見も聞いて取り上げる世の中が、男女共同なんだよと言われて、ああ、なるほどと思いました。やっぱり勉強しないとわからないですね、どんなことでも。

男だろうと女だろうと、得意な人がその仕事をして、役割分担し、お互いの意見を聞いて尊重するのが男女共同なのだと思います。

○（女性部） やっぱり女性も、もうちょっと成長しないといけないと思うんですよ。どうしても旦那の後ろにこう、いるような状態がやっぱりずっと続いていますね。

私、夫を亡くした後、矢面に立たされたとき初めてそれを感じました。それまではずっとこう引っ込んでいたから。女性も成長しないといけないと思います。

○（藤田市長） そうですね。今の日本経済を再生するということを考えたとき、女性の力というのは不可欠です。だから、やっぱり男女が平等に、今言われるように、女性も向上するところを向上させながら、一緒に力を合わせて経済を立て直さないといけないというのが現状であろうと思います。

○（事務局） では、最後に、藤田市長からあらためて皆様方にお礼の言葉を申し上げます。

○（藤田市長） 堀部長さんは先日、50周年記念式典を催されたわけですがけれども、そのときのスタッフによって成功するかが決まりますが、たいへんすばらしい式典で、これも縁で、めぐり合わせなのだと思います。

筑紫野市が、皆さんがおっしゃったように、住みよい、住み続けたい、そして子や孫に誇れるような、光り輝くまちとなるよう、こういう情熱に燃えて今後とも頑張ってもらいたいと思っています。女性の感覚、視点というのを行政に取り入れることは必要なことです。どうぞこれからも筑紫野市商工会、さらにこの女性部の皆さん方の御指導、御鞭撻を心からお願いして、今日の移動市長室のお礼の言葉にかえさせていただきます。本当にありがとうございました。

○（堀女性部長） 事務局長から、一言、お礼をお願いします。

○（帆足事務局長） 今日、商工会までおいでいただきありがとうございました。

本日の話のとおり、女性部は活発に活動しており、青年部とともに筑紫野市商工会の両輪として頑張ってください。また、50周年記念式典も終わって、新たなスタートをきって頑張っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

○（藤田市長） どうもありがとうございます。

○（事務局） 以上をもちまして、本日の移動市長室を終了させていただきます。